公益財団法人福島県国際交流協会

Fukushima NOW

Vo.6（２０１８年２月発行）

【日本語／にほんご】
Vo.6（2018年2月発行）

（公財）福島県国際交流協会では、震災からの復興に向けた取り組みや国際交流・協力団体の活動、外国出身県民の声など、福島県の「今」を多言語にてお伝えしています。
※本紙の翻訳版は、当協会HPからダウンロードできます。

Voices from Fukushima

日本に来てから驚きの連続

フランシス・アミモ・オコティさん（ケニア出身・二本松市在住）

ナイロビのフィットネスクラブでインストラクターをしていたときに、JICA から派遣されていた妻と知り合い 2007 年に妻の職場のある二本松へ来ました。2012 年 3 月から JICA 二本松訓練所で英語講師をしています。

来日前に私が持っていた日本のイメージは、セイコーの時計、トヨタの車、キヤノンのカメラという程度だったので、初めて来たときは日本がこんなにも発展していることに大変驚きました。新幹線に高層ビル、新車同様の車、きれいな街並みにトイレ、新鮮な野菜やフルーツ、制服を着てきちんと働いている人たち。そのすべてが私の予想をはるかに超えた素晴らしいものばかりでした。

東日本大震災の時は、一人でアパートにいました。ケニアではほとんど地震を経験していなかったのでとても驚き、外へ飛び出しました。目の前のビルが揺れていて崩壊するかと思いました。一度揺れが収まったので、部屋に戻り、パスポートとお金を持ち、暖かい服を着てまた外に出ました。地震が落ち着いたと思っては部屋に戻り、緊急地震速報が鳴ってはまた外に出ることを繰り返しました。その後、ニュースで津波の映像を見てびっくりし、隣の人に二本松にも津波が来るのかと尋ね、大丈夫と言われたので胸を撫で下ろしました。地震後は、パスポートとピーナッツ、防寒着、お金をバックに詰めていざというときに備えましたが、それも1か月くらいでした。

原発事故が発生したときは県外に避難することも考えましたが、安全だという日本政府と日本の技術を信じて県内に留まりました。

福島は、穏やかでとてもいいところです。道路は混んでいないし、家賃も高くないし、野菜や果物も新鮮です。最近、立ち入り禁止区域だった浪江町にショッピングモールができたらしいので今度遊びに行ってみようと思っています。

子供の頃の憧れに縁を感じて

ヤーパカー・ティラナンさん （タイ出身・福島市在住）

25 歳のとき、結婚を機に日本に来ました。最初は長野県に 5 年間、その後は福島県に住んでいます。

東日本大震災が発生した時は、仕事が休みで買い物をしていました。帰ろうと思ってちょうど車に乗りこんだところで揺れが起きました。その後、原発事故が発生しましたが、私は県内に留まりました。タイの大使館は、避難先として千葉県にあるタイのお寺を確保したり、帰国希望者に片道分の飛行機のチケットを用意してくれたりしたそうです。

去年の 5 月から勤めている福島県庁では、通訳と翻訳を担当しています。LINE でタイの人とやり取りをしながら「WeLove Fukushima」というFacebook ページで福島県の観光案内をしています。通訳では日本語の敬語に苦労をしますがチャレンジのし甲斐もあります。人と関わること、言葉を扱うこと、勉強が好きなので今の仕事は自分に合っていると思います。周りの人も親切で、私は家族のように感じています。

タイにいた 10 代の頃、家に飾ってあったカレンダーの着物に、「綺麗だなぁ」と憧れを抱いていたことがありました。そのときの私は着物が日本のものとは知らなかったし、成長してからはその憧れもすっかり忘れていましたが、来日して着物を目にしたときに、そのときの気持ちを思い出しました。今思うと、日本にご縁があったのかもしれませんね。

福島はどこへ行ってもよいところです。春になると県内各地でいろいろな花が楽しめます。喜多方日中線のしだれ桜や只見川の第一橋梁、平田村にあるジュピアランドひらたの芝桜などがお勧めですのでぜひ多くの人に訪れてほしいと思います。

▲職場の同僚とともに

中国の家庭料理で文化を伝承

郡山市にある中国出身者コミュニティ「日中文化ふれあいの会～幸福」は、日中の文化交流や地域とのつながりを目的に、国際交流イベントや中国語講座の開催をしています。この日はお正月の定番料理「水餃(スイジャオ)」の料理教室を開催し、20 名の参加者が集まりました。

参加者は、豚肉とラム肉の水餃子を作った後、豆腐乾(とうふかん)と春雨のサラダ、卵スープ中国の伝統菓子の薩其馬(サーチーマー)を食べながら中国の文化を学びました。また、餃子のアレンジレシピとして、果物とナッツ類を包むスイーツ餃子や豆腐を使ったヘルシーな餃子なども紹介され、皆さん熱心に耳を傾けていました。

次回の開催は、3 月 10 日(土)立春の料理「春餅(チュンビン)」。詳しくは当協会ホームページをご覧ください★
http://www.worldvillage.org/fia/news/details.html?id=2191

▲日中文化ふれあいの会幸福代表の李さんと講師の鈴木さん

米づくりから始めた日本酒がついに完成！

福島市飯坂町を流れる摺上川の水で育てた酒米「五百万石」を市内の酒蔵で醸造したお酒「純米吟醸摺上川」がこのほど完成し、お披露目パーティが開催されました。

この日は、酒米づくりに関わった地域の子どもたちと外国人、地元の関係者、約 50 人が集まり、飯坂町にある築 200 年の民家でお酒と食事を楽しんだ後、福笑いや羽根突きをして交流しました。利き酒師によると、このお酒は薄味の煮物や塩辛、なめろう、牡蠣のオイル漬けなどととても良く合うそうです。

米づくりから関わってきた外国人参加者は、「シアトル出身のため農業は初体験でした。このユニークな企画に参加したことで、自分とお酒、更には地域との特別な繋がりを感じるようになりました。福島は美しいところです。人も優しく、どこへ行っても暖かく歓迎してくれるのでとても嬉しいです」と語り、完成したばかりの日本酒を堪能していました。

肌で感じる福島の現状

福島大学では、世界中の学生が福島の現状を学び合うことを目的に、海外の協定大学から短期留学生を招いて県内各地でフィールドワークを行う「Fukushima Ambassadors Program」を開催しています。12 回目となる今回は、スコットランドのグラスゴー大学より学生 15 名と県内のボランティア学生 4 名が、10 日間をかけて福島県の各方部を巡りながら、農業と食の安全や沿岸被災地の現状を学んだり、避難区域や福島第一原発の視察を行ったりしました。

グラスゴー大学でコミュニティを研究している学生の一人は、「震災後の福島を知ることで、コミュニティ形成に必要な普遍的な何かを見つけられるかもしれないと思い参加しました。津波被害で大切な家族を失った上野氏が語る、地域や家族に対する使命感やスピリットには大変感銘を受けました。来日前、日本は一致団結して福島の復興に取り組んでいるのだろうと推測していました。でも福島に来てみると実際には違っていました。福島の国内外にむけた取り組みは、自分も学ぶところが多いです。福島県に滞在してみて、避難区域以外の場所は普通の暮らしがあり、復興も進んでいるなと思いました」と語っていました。

多言語による復興情報「ふくしま復興ステーション」

福島県公式復興関連情報ポータルサイト「ふくしま復興ステーション」では、福島県の復興状況の最新データや食の安全・安心に向けた取り組み、福島を応援する方々の活動などを9言語(日本語・英語・中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語・イタリア語・スペイン語・ポルトガル語)でお知らせしています。 ふくしま復興ステーション http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/

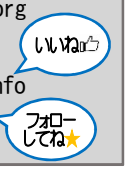
外国出身者のための生活相談窓口のご案内

当協会では、外国語で外国出身者からの生活相談に応じています。

●英語・中国語・日本語
毎週火曜日～土曜日 9：00～17：15

●韓国語・タガログ語・ポルトガル語
木曜日 10：00～14：00 ※第4・5木曜日は事前予約が必要

T E L：024-524-1316(相談専用)
E-mail：ask@worldvillage.org (相談専用)

発行者 (公財) 福 島 県 国 際 交 流 協 会
〒960-8103福島県福島市舟場町 2-1
福島県庁舟場町分館 2 階
TEL 024-524-1315 FAX 024-521-8308
E-mail info@worldvillage.org
URL http://www.worldvillage.org

SNS にて情報発信中！
Facebook https://www.facebook.com/fiainfo
Twitter https://twitter.com/fia_info